

1 学校教育目標	
<p>「確かな学力と豊かな心、健やかな身体を育み、自主と自立の精神を養い、地域社会に貢献する自立した人材を育成する。」</p> <p>【参考】校訓：自律・挑戦・感謝</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自律＝基本的生活態度と礼儀・マナーを正し、節度と規律ある行動をとる。 ○挑戦＝目標を持って挑戦と努力を継続し、自信を身につける。 ○感謝＝相手を尊重し、思いやりの心で行動し、感謝し、感謝される喜びを知る。 	<p>自律、挑戦、感謝の精神で身や心を成長させ、大空(社会)に飛翔する。</p>

2 本年度の重点目標	
<p>『地域に信頼される学校づくり』</p> <p>キーワード ～ あいさつ 地域連携 進路 基礎学力 部活動 ～</p> <p>①自律精神の育成 : 挨拶、清掃、部活動(社会性)、基本的生活習慣、CCCP力</p> <p>②基礎学力の定着 : 学び直しの時間、週末課題、少人数指導、長期休業中の欠点保持者への指導</p> <p>③進路保障 : 将来を見据えた進路指導。目的と方向性を踏まえ、3年間を見通した各種講演会、企業・上級学校見学会、進路学習会を実施</p> <p>④キャリア教育の推進 : 1年…「産業社会と人間」、2年…「インターンシップ」、「修学旅行」、3年…「課題研究」 上記の授業や行事をとおして、「何のために、何に向かって、何を学習するのか」、自分らしい生き方を実現するために、3年間を見通した取組を実施し生徒自身に時間をかけて考えさせる。</p> <p>⑤指導力の向上 : 5s運動、校内公開授業、校外研修への積極的参加、電子黒板、学習者用PC、教育相談(発達障害)、人権・同和教育などの職員研修、学習意欲を喚起する方策</p> <p>⑥地域連携 : (総合学科の系列を生かした連携活動) … 小学校サマースクール(書道、環境) 玄海町からの制作依頼(美術系)、名護屋城博物館での「日韓交流史」 韓国語スピーチコンテストへの参加、生活福祉系列の介護実習 (生徒会活動) … 玄海町民会議での意見発表、わんぱく相撲や花火大会、福祉施設夏祭り等でのボランティア活動、玄海町産業文化祭への出品 (地域への広報) … 青翔ニュースの全戸配布 (その他) … 韓国への少年の船指導者派遣</p> <p>⑦いじめ問題への取組 : アンケート、全校集会、人権講演会、面談での聞き取り調査 ※CCCP力＝コミュニケーション力(伝え合う力)、コラボレーション力(協働力)、プレゼンテーション力(提案力) ※5s運動＝整理、整頓、清掃、清潔、習慣</p>	

3 目標・評価							
①自律精神の育成 : 挨拶、清掃、部活動(社会性)、基本的生活習慣、CCCP力							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○環境整備	・環境美化に関する生徒の意識は向上したか。	・生徒が生活する環境の美化意識を向上させる。 ・校内を快適な学習環境施設となるよう整備する。	・さわやか清掃活動(校外ボランティア活動)を学期に1回実施する。 ・ゴミの適切な処理とトイレの使用について指導を徹底する。 ・美化係を中心とした活動を定期的に行う。	A	・さわやか清掃活動は雨のため2回目が実施できなかったが、美化係やボランティア部の協力で花の定植活動を行うことができた。校内のゴミは減っており、分別もできるようになっている。トイレの使用についても改善されている。今後は、生徒保健委員会の活動を活発に行う必要がある。	さわやか清掃活動は、今後とも予定通り実施していきたい。活動をとおして、美化意識の向上を図り、公共物を大事に扱う気持ちを育てていきたい。校内美化に関しては、生徒保健委員会を中心としてポスター作成などでマナーの向上に努めたい。
	●心の教育	・思いやりの心の育成ができたか。	・クラス担任との情報の共有や、保護者・スクールカウンセラー・専門機関との連携・協力体制を密にする。 ・HR活動等を通して、心の安定を図り、コミュニケーションが上手にとれるようにする。	・生徒理解と情報共有の職員研修や学期に1回の教育相談フォーラムを開く。また、スクールカウンセラーの助言を得て、関係機関との連携を図る。 ・心の健康のためのLHRを実施する。 ・コミュニケーション力の向上のための職員研修を行う。	A	不登校傾向の生徒や問題を抱える生徒の把握のために、定期的に教育相談フォーラムを実施し、学年との連携が効果的にできたと思う。また、外部の関係機関との綿密な連携・協力体制により、早い段階で生徒に適切な支援ができた。さらなる綿密な生徒把握を可能にするために、職員研修等を進めていく必要がある。	職員研修をとおして、生徒への共通理解を図り、同時に生徒のコミュニケーション力向上についての取り組みを考えていきたい。また、個別支援に関しては、関係機関との連携やスクールカウンセラーによるソーシャルスキルアップを図る取り組みの充実を図っていきたい。

教育活動	○生徒指導	・対話・会話を重視した生徒指導ができたか。	・卒業後を意識した生徒指導という目標を念頭に置き、全職員で連携・協力し、遅刻・欠席、服装・頭髪等の指導を行う。 ・指導措置件数が昨年より減少できるように指導を継続する。	・職員間で情報の共有を行い生徒に対して、学年をこえて関わりを持つようにする。 ・朝の校門前での挨拶運動を通して生徒とのコミュニケーションを図る。	A	・指導措置件数が半減し、全体的に落ち着きが見られてきた。また、服装指導をする場面が例年より少なくなってきた。さらに、朝の校門指導を通して感じることば、徐々にではあるが挨拶のできる生徒が増えてきた。	・来年度も指導措置数のさらなる減少を目指し、校門指導を通して、さらに生徒とのコミュニケーションを図ってきたい。
	○読書指導	・本に親しむ生徒を育成できたか。	・学校図書館の貸出冊数を、1人平均5冊以上にする。	・配布物、掲示板、放送などを使った広報活動を行う。 ・生徒登校時の閉館日を年間7日以内にする。	A	・図書館便りの発行、掲示板の活用など広報活動を行った。図書部職員で分担し、図書館閉館日を5日以内にする事ができた。生徒一人あたりの平均貸し出し冊数は5冊以上となった。	・より多くの生徒が本に親しみをもち、図書館を利用するように、図書委員による広報活動の工夫を行う。
	○基本的な生活習慣の確立	・挨拶が活発に行われるようになったか。	・朝のあいさつ運動期間を設けて行う。	・生徒会が中心となり、各部活動に協力を依頼し、あいさつ運動期間を設けて校門や生徒昇降口に立ちあいさつ運動をおこなう。	B	校門前での朝の挨拶運動は、部活動が継続しているが、部活動に入部している生徒が少ないので、低迷傾向にある。	学校の活性化につながるような挨拶運動を再考し、継続的に取り組むことができるような工夫をしていきたい。
	●健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成ができたか。	・朝食をとっている生徒の割合を70%にする。	・保健便りや青翔ニュースなどをとおして、食育を推進し、生徒・保護者の意識を高める。	B	保護者説明会での呼びかけや食育便り、教科指導をとおして、食と健康についての意識向上に取り組んだ。5月の食生活調査では、朝食摂取率が75%に達した。	食生活調査を5月に実施しているが、10月にも実施することにより、生徒の食生活状況の把握と意識の向上に努め、食育の指導の充実を図りたい。

②基礎学力の定着：学び直しの時間、週末課題、少人数指導、長期休業中に欠点保持者への指導

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・生徒の基礎学力は定着したか。 (青翔タイム、週末課題、少人数指導、成績不振者に対する長期休業中の指導)	・落ち着いた学習環境を作るため、遅刻・欠席を昨年度の50%以下にする。 ・考査や模試の結果を生徒に配布し、事後指導に役立てる。 ・青翔タイムの活用により基礎学力の向上を図る。	・生徒指導部と連携し、生徒面談・保護者面談等を通して遅刻を減らす。 ・考査や模試の結果を迅速に処理し、個人票の配布を行う。 ・青翔タイムに全職員で取組み、レベルに応じた追指導を行う。	A	・遅刻者数は昨年度よりも大幅に減少した。特に1年生の減少が大きかった。今年度も遅刻累積カードを用いた指導を行ったが効果が表れてきている。 ・欠席者数は前年よりもわずかに減少した。 ・青翔タイムは各学年の工夫、努力により実施され、基礎学力向上に寄与していると思われる。	・「遅刻累積カード」の記入により統計や累積数の管理は行いやすくなった。また、教務部と生徒指導部との連携で、入室許可の手続きも厳格化できている。今後は欠席者数、冬季の遅刻者数の増加を減らす方を検討したい。 ・青翔タイムでの学習用PC利用内容について、生徒の実態に合うものになるように検討していく必要がある。
	○少人数学級編制	・一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行うことができたか。	・新しい学校生活に慣れ、目標を持った高校生活が送れるようにする。 ・学習指導においては、理解度に応じた指導を効率よく進め、クラス経営においては、教育相談や進路相談の充実を図る。	・ホームルーム、面談などあらゆる場面で一人一人の様子を観察し、声を掛ける。 ・クラスを少人数に分けることや、ITの活用の機会を拡大させる。 ・産社の授業、キャリア教育を通して卒業後の目標を明確にする。	A	・ホームルーム活動、総合的な学習の時間などを通して将来を考えるための指導を行い、目的意識を持たせることができた。 ・1年次の授業、数学、英語、系列の授業などで少人数やTTの授業を行うことで、生徒の理解度に応じて学習指導を行うことができた。	・学級担任、学年団を中心に、生徒の様子を観察し、個に応じたきめ細かな指導を行うことができている。今後連絡を密にとり指導を行ってきたい。 ・多くの授業で少人数の指導を行っているが、今後は少人数指導やTTの授業の効果を検証して、より良い指導となるようにしていく必要がある。
学校経営	○学校経営方針	・重点目標は達成できたか。	・重点目標の1つ以上の項目に満足いく結果が得られる職員の割合を90%以上にする。	・各行事前や考査前に呼びかけを行い、目標達成の意識を喚起する。	A	基礎学力の向上や、進路目標達成、地域連携については、概ね満足出来る成果であるとする職員が90%以上になったが、清掃や部活動、職員の資質向上は90%以下であった。	部活動の充実のための方を検討する。 職員研修についてはICT関係の研修は充実してきたため、今後は、指導力向上の研修を定期的に行っていく。

③進路保障：将来を見据えた進路指導。目的と方向性を踏まえ、3年間を見通した各種講演会、企業・上級学校見学会、進路学習会を実施

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路指導	・進路希望を達成させることができたか。	・希望する進路実現(進路保障)、卒業後の早期離職・退学を防ぐために、下記のキャリア教育を通して、勤労観・職業観の育成を目指す。 ・就職率および進学率100%を目指す。	・進路希望・生徒の適性に関することについて、早い段階から職員間での情報共有を行う。 ・団体・企業・上級学校との関係強化のために、企業・学校訪問を積極的に実施する。	B	・進路保障を数字だけで判断すると、100%達成できたと言えるが、推薦入試(AO入試含む)での上級学校進学が大半を占めていることや、年々予算が削減され、企業の新規開拓ができなくなっていくことが今後の課題である。	・他の専門高校と同じくらの就職者数を出しており、就職指導に何らかの策を講じる必要がある。さらに、ここ数年の傾向から早期退職、退学者が出た際は、企業・上級学校との関係について慎重に取り扱う必要がある。

④キャリア教育の推進 : 1年…「産業社会と人間」、2年…「インターンシップ」、「修学旅行」、3年…「課題研究」 上記の授業や行事をとおして、「何のために、何に向かって、何を学習するのか」、自分らしい生き方を実現するために、3年間を見通した取組を実施し生徒自身に時間をかけて考えさせる。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○キャリア教育	・キャリア教育が充実したか。	・一人一人の社会的・職業的自立に向け、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」「専門的知識・技術・技能」に関する能力の育成を目指す。	・「キャリア教育支援事業」や地域の力を活用し、総合学科に特化した内容を設定。外部講師による講演会や郷土学習の教材利用、各系列による校外実習等の体験活動を充実させることでキャリアアップを図る。	B	・年間の実施目標を最低限クリアしているが、更なるキャリア教育の充実のためには、普通科、専門教科にかかわらず、その5大要素を職員がしっかりと理解する必要がある。またキャリア教育は「就職や進学のために行うことである」、という理解を変える必要がある。	・本校が進んでいく道を明確にし、それに対応すべきカリキュラムやキャリア教育の更なる充実を図るため、内容を検討する必要が急務である。さらには本校が総合学科であるという意識の元に、今何をすべきか、柔軟性を持った考えで取り組まなければならない。
⑤指導力の向上 : 5S運動、校内公開授業、校外研修への積極的参加、電子黒板、学習者用PC、教育相談(発達障害)、人権・同和教育などの職員研修 学習意欲を喚起する方策							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○職員の資質向上	・教科指導力が向上したか。 (校内公開授業、校外への研修)	・学習用PCが全学年で利用可能となるため、ICT活用能力をより高める。 ・年間1回以上の校内公開授業と年間2回以上の授業参観を行う教員の割合を90%以上にする。 ・校内外での各種の研修会を年5回以上受講する教員の割合を90%以上にする。 ・学習意欲を喚起する方策に取り組む教員の割合を100%にする。	・ICT教育を絡めた公開授業を2回計画しており、他にも校内研修を設定しながら教員相互が授業を見せ合いやすい環境をつくる。 ・校外研修の内容が職員に伝わるよう校内研修を充実させる。 ・職員それぞれの業績評価表に学習意欲を喚起する方策を盛り込む。	A	今年度は校外対象の公開授業において、ほとんどの職員が公開授業を行い、また相互参観して研修を行った。それ以外にも指定研修の教科の授業研究会は活発に行われた。 教育センターで行われる研修へは多くの職員が参加し、研鑽した。	次年度も、ICT教育に関する校外対象の公開授業や、学校独自の公開授業は継続的に行われる。これらの公開授業を校内研修に生かし指導力向上につなげたい。 それ以外にも校内・校外を問わず、研修の機会を増やす方策を検討したい。
	○業務の改革	・校務の効率化に努めたか。 (5S運動) 5S…整理、整頓、清掃、清潔、習慣	・定例の業務の引継を効率的に行う。 ・校務の整理や職員室等の自分の席周辺の5Sに努める教員の割合を80%以上にする。	・分掌・係毎の文書の管理方法を整理する。 ・調査後や、長期休業前に書類や資料の整理を呼びかける。	B	机周辺の整理整頓を含む校務の効率化については、自己評価では、80%以上の達成とはなっていないため、評価を「B」とする。	大掃除や長期休業中等、整理しやすい時期に呼びかけを行い、整理整頓の意識を高めていかなければならない。
	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・教職員のICT活用能力は向上したか。 (電子黒板、学習者用PC)	・電子黒板、学習用PCを授業で効果的に活用できる教員の割合を100%にする。	・教科ごとの研修会を実施し、授業でのICT機器利活用技術の向上を図る。 ・学校行事等において、ICT機器を活用した取り組みを進める。	A	・職員の研修に於いては、各職員がICT機器利用の研修を進めていただいた。電子黒板に関しては、ほぼ全員が利用できるようになっている。 ・講演などの学校行事の際には、必要な場面でICT機器の利用が進んだ。	・特別教室に、電子黒板がないなど、設備面での改善が必要である。 ・現在、各職員が必要に応じて、ICTサポーターの支援を受けて研修を行っている。支援員の配置が必須である。
⑥地域連携 (総合学科の系列を生かした連携活動) … 小学校サマースクール(書道、環境) 玄海町からの制作依頼(美術系)、名護屋城博物館での「日韓交流史」 韓国語スピーチコンテストへの参加、生活福祉系列の介護実習 (生徒会活動) … 玄海町民会議での意見発表、わんぱく相撲や花火大会、福祉施設夏祭り等でのボランティア活動、玄海町産業文化祭への出品 (地域への広報) … 青翔ニュースの全戸配布 (その他) … 韓国への少年の船指導者派遣							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○系列	・科目群の授業において地域と連携した授業、活動が行なえたか。 (重点目標参照)	・各系列の特色を活かし、校外実習や他校との連携などを行う。 ・系列の特徴を活かした地域連携の活動の機会を増やす。	・地域連携の場の設定や生徒への案内を行っていく。 ・「産業社会と人間」や「課題研究」の授業において地域や企業等との連携を行う。	B	・小学校との交流や福祉事業所での校外実習など各系列の特色が活かされた活動を行うことができた。 ・地元企業への持ちこみ事業などの地域連携の活動を行うことができた。	・総合学科発表会を軸に地域の学校や教育機関へ本校の特色ある取り組みをさらに発信していきたい。 ・各系列の特色を活かした校外実習や他校との連携などを継続して行っていく。
	○生徒会活動	・地域行事への参加と協力が行なえたか。	・玄海町町民体育大会への参加や玄海みらい学園や玄海町の行事への参加を積極的に勧める。	・本校生徒だけでなく職員が地域行事等に関わることで、地域との繋がりを強化する。	A	レポート部がアナウンス担当として大会に参加し、地域との繋がりを深めた。 津波対策の防災訓練を玄海みらい学園と共同で実施した。	これまで継続してきたものを繋いでいき、さらに発展させられるような企画を検討していきたい。 小中学校合併に伴い、小中高の連携を新たに構築していけるような企画を立案していきたい。

学校運営	○開かれた学校づくり	・広報活動を充実させることができたか。 (公開授業、情報発信)	・学校HP、掲示板の定期的な更新を行う。 ・青翔ニュース等を通して家庭、地域へ学校の情報を発信する。 ・はなまる連絡帳の登録件数を90%以上にする。	・有用な情報の効果的な提供を目指し、提供の時期や内容の検討を十分に行う。 ・青翔ニュースを家庭や地域にも配布する。	A	・青翔ニュース等を定期的に、家庭、地域に配布し学校の情報発信ができた。 ・はなまる連絡帳の登録は、登録件数が初め伸び悩んだが年度末には約90%になった。	・学校HPの更新を定期的に行える体制づくりを考えていきたい。 ・はなまる連絡帳の登録を年度初めより90%以上の登録数になるように呼び掛けていきたい。
⑦いじめ問題への取組 : アンケート、全校集会、人権講演会、面談での聞き取り調査							
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくりができたか。	・いじめ・体罰等対策委員会において、いじめ防止対策等を検討する。 ・事後対応についても迅速かつ円滑に対策をとれるような体制づくりと整備を行う。	・毎月月初めに、月別アンケート(いじめ、金銭強要、暴力行為)を実施する。今年度からは、学習用PCを使ってアンケートを行い、今まで以上に生徒の声が届きやすくなり、生徒が情報を提供しやすい環境づくりに努める。	A	・今年度は、いじめの認知件数は0であった。 ・今年度から月別アンケートを学習用PCでおこなったことで、より周りを気にせず回答することができた。	・来年度も学習用PCでアンケートを行い、生徒が情報を提供しやすい環境づくりに努める。さらに、アンケートだけでなく、休み時間の校内巡視なども行い生徒の実態把握に努めていきたい。
○本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校事務	・施設設備の維持管理に努めることができたか。	・生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう危険箇所などの早期発見に努める。	・日頃から定期的に校内外を巡回する。 ・安全点検表を利用し、各担当部署とも連携をとりながら迅速な対応につなげていく。	B	校内巡回及び安全点検表を基に確認を行い、早期発見に努めた。不良箇所のできるだけ早い修理・回全の対応ができた。建物や工作物等老朽化で新たな不良箇所も出てくるため、予算要求、限られた予算執行の優先順位等、計画的な修繕対策を講じていく必要がある。	今年度は安全点検表の見直しを行ったことで、各担当部署と連携をとりながら迅速な対応ができたと思う。建物や工作物等老朽化が進行しているものもあるため、予算の要求や予算執行の優先順位等、計画的な修繕対策を講じていきたい。

4. 本年度のまとめ・次年度の取組

①自律精神の育成: 評価項目の「基本的生活習慣の確立」において達成度は「B」であったが、学校生活の中で挨拶や掃除に対する生徒の意識は、徐々に向上している。さらなる向上を目指したい。2月に実施した第4回総合学科発表会は、年々発表内容がよくなっており、生徒の発表態度も堂々として良かった。今後は、校内発表にとどめることなく、一般への広報も行い、外部に広く見学・参観を呼び掛けていきたい。

②基礎学力の定着: 基礎学力の定着を目指す1・2年のラインズドリル、3年における青翔タイムの取組は、継続して行った。就職試験で失敗しないよう、基礎学力の向上を図る。また、進学についても、一般入試での進学を充実させていきたい。

③進路保障: 最後の出口指導である就職や進学の試験に向けての指導は全職員が対応し、生徒個々に応じたきめ細かな指導を行っている。特に面接指導では、保護者の協力を頂き、実践的な練習ができた。就職内定率は高く、未決定者についても最後まで粘り強く指導を行った。今後も今年度以上に指導体制を強化していきたい。

④キャリア教育の推進: キャリア教育は充実してきてはいるが、まだまだ、職員全体で共有されているものばかりでは無い。全員一丸となって進めていくためにも教師自身の指導力向上に取り組んでいかなければならない。

⑤指導力の向上: 全学年で学習用PCの活用ができるようになり、ICTの利活用が自然な形になってきている。研修の機会も多く職員の技量も向上してきている。次年度は校内公開授業をとおして、新たな活用方法を模索していきたい。

⑥地域連携: 玄海町の行事には積極的に関わっている。今年度は津波対策の防災訓練を玄海みらい学園と共同実施し、地域での防災・避難体制の強化に努めた。また、連携授業や部活動中心の地域連携には、多くの生徒、職員が携わり、地域の方から高い評価をいただいた。

⑦いじめ問題への取組: 今年度のいじめ認知件数は0であった。本校では、月に1回いじめ、盗難、暴力に関する生徒対象のアンケートを実施している。アンケートに記入されたことは、速やかで組織的な対応を心掛け、深刻な事態に至らないようにしている。来年度も早期発見・早期対応をし、未然防止に努めたい。

●は共通評価科目、○は独自評価科目